

## 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人  
早瀬 憲一

あて名

〒 532-0003  
大阪府大阪市淀川区宮原3丁目4番30号  
ニッセイ新大阪ビル13階  
早瀬特許事務所

様

PCT  
国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
〔PCT規則43の2.1〕

発送日  
(日.月.年) 08.3.2005

出願人又は代理人 の書類記号 P36023-P0	今後の手続きについては、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/016938	国際出願日 (日.月.年) 15.11.2004	優先日 (日.月.年) 28.11.2003
国際特許分類 (IPC) Int. C17 H03D 7/00, 7/14		
出願人 (氏名又は名称) 松下電器産業株式会社		

## 1. この見解書は次の内容を含む。

第I欄 見解の基礎  
 第II欄 優先権  
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成  
 第IV欄 発明の単一性の欠如  
 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明  
 第VI欄 ある種の引用文献  
 第VII欄 国際出願の不備  
 第VIII欄 国際出願に対する意見

## 2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

## 3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 15.02.2005	特許庁審査官 (権限のある職員) 白井 孝治	5W	8843
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内線 3576		

## 第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、\_\_\_\_\_語による翻訳文を基礎として作成した。  
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ  配列表

配列表に関するテーブル

b. フォーマット  書面

コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期  出願時の国際出願に含まれる

この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3.  さらに、配列表又は配列表に関するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1、3、9、12、14 請求の範囲 2、4、5-8、10、11、13、15-16	有 無
進歩性 (I S)	請求の範囲 8、13 請求の範囲 1-7、9-12、14-16	有 無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-16 請求の範囲	有 無

2. 文献及び説明

文献1: JP 04-129407 A (アルプス電気株式会社)  
1992. 04. 30

文献2: JP 07-254821 A (日本電気株式会社)  
1995. 10. 03

文献3: JP 2001-522566 A  
(マキシム・インテクレーテッド・プロダクツ・インコーポレーテッド)  
2001. 11. 13

文献4: JP 09-069730 A (日本電気株式会社)  
1997. 03. 11

請求の範囲1、3、9、12に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1の第1図～第3図に記載されたものと同一である。また、請求の範囲14に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1の第2図に記載されたものと同一である。

よって、請求の範囲1、3、9、12、14に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1より新規性、進歩性を有しない。

国際調査報告で引用された文献1には「歪特性を良くするには、トランジスタQ5、Q6からなる差動増幅器に大きなコレクタ電流が必要になる。一方、トランジスタQ1、Q2、Q3およびQ4からなるダブルバランスミキサの雑音指數特性を良くするにはコレクタ電流を小さくしなければならない。」(第2頁左下欄第4-9行)と記載されており、

また、流れる電流を小さくするために、並列にトランジスタを接続することは国際調査報告で引用された文献2に記載されている。

よって、請求の範囲2、10、11に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1、2より自明であり、進歩性を有しない。

## 第VI欄 ある種の引用文献

## 1. ある種の公表された文書(PCT規則43の2.1及び70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日.月.年)	出願日 (日.月.年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日.月.年)
JP 2004-104515 A [P, X]	02. 04. 2004	10. 09. 2002	

## 2. 書面による開示以外の開示(PCT規則43の2.1及び70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日.月.年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日.月.年)

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

出力負荷部のみにバイアス電流を追加供給するバイアス電流供給回路を設けることは、国際調査報告で引用された文献3に記載されている。

よって、請求の範囲4に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1、3より自明であり、進歩性を有しない。

国際調査報告で引用された文献4の図1に記載されたものはダブルバランス型、図2に記載されたものはシングルバランス型であり、両者の構成の類似性から、国際調査報告で引用された文献1の第1図～第3図に記載されたものをシングルバランス型とすることは、当業者にとって自明である。

よって、請求の範囲5、7に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1、4より自明であり、進歩性を有しない。

シングルバランス型とした点については請求項5、7と同様であり、並列にトランジスタを接続した点については請求の範囲2、10、11と同様であるから、

請求の範囲6に係る発明は、国際調査報告で引用した文献1、2、4より自明であり、進歩性を有しない。

負荷抵抗にのみ電流を追加供給する電流源を設けることは、国際調査報告で引用された文献の何れにも記載も示唆もされていない。

よって、請求の範囲8、13に係る発明は進歩性を有する。

バイポーラトランジスタに代えてMOSトランジスタを用いることは当業者にとって自明であるから、

請求の範囲15に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1より自明であり、進歩性を有しない。

ミキサ回路をダイレクトコンバージョン方式の受信システム、あるいはL.O.W-I.F方式の受信システムに用いられるものとしたことは当業者にとって自明なことであるから、

請求の範囲16に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1より自明であり、進歩性を有しない。